



大野西小学校校長
うらえ・たつみ
浦江 辰美さん

地域の人が持っている教育力は、計り知れないものがあります

「小1ギャップ」や「小1プロブレム」(※)というものは以前から言われていましたが、この「学校支援地域本部事業」に取り組んでからは、そういったことが少なくなりました。担任の教員は一人ですが、たくさんの方が関われば、一人一人に目が届くようになります。

地域の皆さんが学校の中に入り込むことによって、いろいろなものの芽が出てきたように感じます。学校外でも、子どもたちの方から自然にあいさつを交わす姿を目にしますし、子どもたちだけではなく、教員と地

域の皆さんとの絆が強くなっていることを感じます。

また小学校にとって中学校はある意味「地域」だと思っています。そうした中、中学生との良い関係を築きつつあり、体育の授業などで、中学生が小学生を教えてくれることもあります。

地域の皆さんが持っている教育力は、計り知れないものがあります。大事なことは、人が変わっても継続していく基盤をつくること。次の時代に引き継いでいく方法を地域の方と知恵を出し合い、つくっていきたいと思っています。

学校教育の



大野中学校校長
たなか・せいじ
田中 誠治さん

地域コミュニティ再生のカギは、「学校」にあると思っています

「開かれた学校づくり」の具体的な形となったのが、この「学校支援地域本部事業」だと考えています。それは、地域の教育力を学校教育に生かすということです。

始まった当初は、教員も地域の皆さんも、どう関わっていけばいいのか手探りの状態でしたが、学校支援ボランティアさんのおかげで、他の業務と重なって、教員の人数が少ないときでも夏休みなどの自主勉強会を定期的に行うことが可能となりました。学校支援ボランティアさんは、そういった勉強会でも必ず生徒に声

を掛けてくださいます。そういったことが励みとなって、学習への意欲向上につながっています。

子どもを育てるといことは、コミュニティづくりにつながっていると思っ

ています。人との付き合いが希薄になっていると言われる中で、地域コミュニティ再生のカギは「学校」にあるのではないのでしょうか。子どもが中心にいる「学校」は地域をつなぐ大切なものだと感じています。これからは、学校を生かしたコミュニティづくりが大事になってくると思っています。

地域の人と触れ合うことで、豊かな教育につながります

地域の皆さんは誰でも、長い間経験してこられたすばらしい知恵や生活力を持っています。

逆に教員が教えられたり、アドバイスしてもらったりと、今まで気付かなかったことに気付かされることも多いです。その力を子どもたちが学びとり、学校の中で経験できることは素晴らしいことだと感じています。

また、地域の皆さんは下校時の見守りや、地域の活動を通して児童のことをよく知ってくださっています。授業でも、一人一人の児童をよく理

解し、うまくタイミングを見て声を掛けてくださるので、児童は不安を抱かずに、自信を持って授業に取り組むことができます。

何より、児童に「自分でやりきる力」をつけさせるように見守ることに徹して動いてくださっています。

また、年の離れた人との付き合いの中で、自然な形で礼儀などを学ぶことになり。それも、長年の間地域の皆さんが学校に対して目を向けてくれているからこそできることだと感じています。



友和小学校校長
まつえ・としみ
松江 都志美さん

現場では—

「頑張っている姿を見てもらいたい」と、誰もが思っています

児童の誰もが、「自分の頑張っている姿を見てもらいたい」と思っています。わたしたち教員も当然努力していますが、学校支援ボランティアさんが、きめ細かく褒めてくださることによって、児童は「達成感」や「充実感」を得ています。

低学年では、教員の言葉を頭では理解しても、実際に実行に移すとき、どうすればいいのかが分からず、悩むことも多いです。そんなとき、ボランティアさんに声を掛けていただくことで、きっかけをつかむことも多いですね。

そういった中、学校支援ボランティアさんとの打ち合わせで、情報交換をし、時にはアドバイスをいただくこともあります。

児童はボランティアさんが来てくださるのをとても楽しみにしていて、授業が始まる前から「今日は何人来てくれるだろう」とわくわくしながら待っています。また、地域のスーパーなどで出会ったことを、翌日、嬉しそうに報告してくれる児童も増え、地域とのつながりが深まっていることを感じます。



友和小学校 1年生担任
くりす・りえ
栗栖 理絵さん

できる関係ができていたり、子どもたちと地域の絆がしっかりとしたものになっていくことを感じます。また、東日本大震災発生後の宮城県で実施された校長への聞き取り調査によると、学校支援地域本部の設置は、避難住民による自治組織の立ち上げが、順調に進められたとのこと。〔文部科学省大臣官房総括審議官前川喜平(週間教育新聞2011・12・12号)より〕学校支援地域本部は、地域の絆づくりやコミュニティ復活の一翼を担っている活動でもあります。そういった中、昨年12月には、佐方小学校区学校支援地域本部と大野東小学校学校支援地域本部が設置されました。現在、家庭科や書写などの学習支援、絵本の読み聞かせ、登下校時の見守りなどの活動を行っています。新年度からの活動に向けての準備を行っています。今後、未設置の小・中学校に対しても、地域の皆さんとの協議・検討を重ねながら、学校支援地域本部の設置を目指していきます。

―特集 いつもそばに 終わり―

■ ■ ■
これまでと、
これから―

学校支援ボランティアの人たちは、地域の大人として、子どもたちにさまざまな関わりをしています。学校支援地域本部が設置されている地域の子どもの中には、地域の人を「いつもそばに」感じていることから、学校外でも声掛けが行われたり、子どもを叱ることが

※小1ギャップ・小1プロブレム

小学校に入学したばかりの小学校1年生が集団行動が取れない、授業中に座ってられない、話を聞くことができないなどの学校生活に適應できない状態を指す。十数年前から目立ち始めた。それまでは、1カ月程度で落ち着くと言われていたが、これが継続するようになり、ひどい場合、数カ月以上継続する。その背景に、幼児期における社会性を広げ、対人関係に自信をつける機会の不足があげられる。